

PREMIUM HEADPHONE GUIDE

特別付録
ヘッドホンカレンダー2019

500モデル超 徹底テスト

magazine

Vol.11

2018 WINTER ¥1,200

[プレミアムヘッドホンガイドマガジン]

ヘッドホンは 型破りが面白い!

アジア圏イヤホン特集 ヘッドホン大賞2018

"試聴"と"測定"で
5万円クラス&
平面型に迫る

ハイレゾDAP/
バランスケーブル

いま、選ぶべき "完全ワイヤレス"

ダイナミック型
イヤホン

VICTOR

HA-FW10000

☆☆☆☆☆

ビクターブランドを冠した、プレミアムイヤホンが突如降臨!
ウッドにしか表現できない、美しい響きに魅せられて
発表直後から話題沸騰の本機を、岩井喬がさっそくレビューする。

文/岩井 喬

写真/阿部良寛 取材協力/JVCケンウッド



ウッドにししか出せない 心地よく美しい響き

ビクターの冠を与えられた 新たなフラグシップ

いよいよ本格的にビクターブランドが帰ってくる。昨年プレミアムな音場特性カستمサービス『WIZMUSIC』で久々にビクターブランドが復活したが、この10年あまりJVCブランドで展開してきたウッドイヤホンシリーズも新フラグシップ「HAFW10000」で改めてビクターブランドの冠が与えられることになった。

ビクターブランドの歴史は古く、1927年の日本ビクター蓄音器株式会社が前身である。その後日本ビクターとしてオーディオ全盛期に飛躍を遂げるが、特にスピーカー作りには定評があり、木の振動板であるウッドコーンを生み出す原動力にもなった。

また70年代以降、家庭用ビデオVHSの規格で世界を席巻。海外向けブランドとしては、日本ビクター株式会社「の頭文

字を取ったJVCを同時に展開し、その名を知らしめた。そして2011年からJVCブランドとして製品を送り続け、現在に至るわけであるが、その間オーディオ分野でブランドを代表するモデルが、前述したWOODCONEシリーズを軸としたWOODCONEシリーズだ。スピーカーユニットそのものを、多くの楽器と同じように木で構成することで、スピーカーという楽器を作り出す、という壮大なるテーマのもと製品を開発してきたのである。その流れを汲んで、

2008年に誕生したウッドイヤホン「HPFX500」は8.5mmの小さなドライバーにウッドドームを取り入れた、他にはない個性で人気を博し、現在のCLASSICSシリーズ『WOODMEMO』に至る礎となった。奇しくもこのHPFX500はビクターブランドのバッジをつけており、HAFW10000はまさに原点回帰といえるプロダクトといえるだろう。

ビクターブランド復活を告げるプレミアムイヤホンとして開発された注目機。イヤホン本体を支えるステンドレスのブラケットには、あのビクター犬が誇らしげにあしらわれている！



1 美しく、そして音響的にも優れた、国産の楓に漆を多層塗りしたウッドハウジング/ウッドスタビライザーを採用。艶やかで深みのある重厚なカラーが所有欲をくすぐる。ちなみにMMCX端子はハウジングから分離した構造としており、ここも高音質化に寄与している。

2 ケーブルは着脱式でMMCXコネクターを採用する。耳掛け装着が可能になっている。



ウッドドームカーボン振動板と漆の多層塗り国産楓ハウジング

このWOODシリーズ共通の狙いは、木が奏でる美しい響きと自然な音の広がり、をより普遍的な次元にまで昇華することにあり。さらに、空間を満たす多彩なグラデーション・空間に浮かび上がる滑らかなコントラスト、というもう一つの難しいテーマをも実現したモデルこそ、このH A I F W 1 0 0 0 0 なのだ。

では、改めてH A I F W 1 0 0 0 0 のプロフィールを紹介していこう。昨年発売されたS O L I D E G E シリーズで得られた知見が反映されているらしく、ドライバユニットにはカーボンコートP E T 振動板と50 μ m ウッドドームを組み合わせた「ウッドドームカーボン振動板」を採用。正面にはチタニウムドライバーケースを配し、不要振動を抑えている。さらに今回力を入れたのはウッド振動板と同様、厳選した天然素材を用いて豊潤かつナチュラルな響きを生かしたサウンドづくりを行うという取り組みだ。国産楓を用いたハウジングやウッドスタビライザーには一つ一つ手作業で漆の多層塗りを施したほか、ケーブルの介在にシルク糸を用いて静電気・振動対策を施している。またチタニウム製インナーハウジング内部には四国・阿波和紙や真綿(絹綿)による吸音材を導入。ケーブルとハウジングを繋ぐブラケットやノズルにはステンレスを用いて異種素材同士の組み合わせ

せで振動を抑え込む構造としたほか、イヤーチップには内部の反射音を抑える加工を施し、肌に近い力学特性を持つ素材を採用した「スパイラルドット+(プラス)イヤピース」を取り入れた。なおブラケットはMMCXによるケーブル着脱機構を持たせており、ハウジング内部の容積を確保するため、MMCX端子部を独立したポッドに分離した構造としている。

従来のWOODシリーズと「線」を画するサウンド

試聴にはソニー「N W I W M 1 Z」とJVCのポータブルアンプ「S U I A X 0 1」を繋いだ環境を用意。実際に聴いてみるとこれまでのWOODシリーズの概念を打ち破る、アタックの切れ味のよさと、ほじょいふくよかさを両立しつつも、余韻がにじまない、ナチュラルな空間性を持たせたサウンドを聴くことができ。実直でストレートな音色を感じることができ、それよりは響きの自然さ、潤いある倍音表現が加わり、有機的な生々しさが漂ってくる。天然素材の組み合わせによる質感表現の滑らかさ、適度な制動性によって、弾力豊かなサウンドに結び付いているようだ。

オーケストラはほのかにウオームな響きも残しつつ、旋律を爽やかかつ艶やかに描き、厚みを持たせた伸びよいハーモニとして表現。11・2 MHz音源においても肉付きよくナチュラルなボーカルの



ダイナミック型イヤホン

VICTOR HA-FW10000

¥OPEN(実勢価格¥180,000前後)

SPEC ●型式:ダイナミック型 ●再生周波数帯域:6~52,000Hz ●インピーダンス:16Ω ●ケーブルの長さ:1.2m ●質量:約21.5g(ケーブル除く) ●付属品:イヤークリップ(スパイラルドット+(プラス)イヤークリップSサイズ)、キャリングケース



付属品一式。イヤークリップには肌に近い力学特性を持つ新素材を用いた「スパイラルドット+(プラス)イヤークリップ」を採用。キャリングケースにもビクター犬があしらわれている。



いま聴くべき、5つ星ヘッドホンCOVER STORY

ナチュラルな響きだけでなく 正確さと解像度の高さを備えた

素直な声の際立ちと潤い感。そして艶よくスムーズに描かれる口元の描写は、息継ぎのニュアンスも細かく非常に瑞々しい。ピアノのアタックはキレ味を残しつつ、倍音の華やかさを感じさせる爽快さに溢れ、ハーモニクスもほぐれよく、丁寧な響きとしてまとめる。ウッドベースの密度を持たせた胴鳴りの弾み方も躍動的だ。ギターは弦はカリッとしたエッジを出しつつ煌びやかに浮かび、分離よく定位する。

バランス駆動では一層S/Nの高さ、分離のよさが際立ち、付帯感のない澄み渡ったサウンドステージが展開。ポーカーの有機的な質感も鮮明に引き出し、ウッドベースはむっちり艶やかに、かつしなやかに描かれている。きめ細やかで粒立ち丁寧なトレスするオーケストラの旋律もリアルだ。特にDSD音源ならではの余韻感やホールトーンの豊かな響きを緻密に描き出す、空間表現力の高さ、雑味のない音像描写性は特筆すべきものである。シンプルなシングル・ダイナミック型ならではの素直さが生きているの

だと思われるが、ハイブリッド形式やBA型マルチウェイが多い同価格帯の製品では、なかなか味わうことができない品位の高さだ。

従来のWOODシリーズは他にはない個性的な音色感にポイントを置いていたところもあるが、HA-FW10000は旧来からのWOODシリーズとは一線を画す、ハイエンドモデルに相応しいサウンドを有している。自然な響き感を軸としつつ、ディテールの上品な艶やかさ、正確かつ解像度の高い音像のアタック表現を獲得した。WOODシリーズの集大成を飾るフラグシップモデルとして、従来からのファンはもちろんのこと、今までのWOODシリーズは苦手というリスナーにもこのサウンドは心に響くはずだ。これからのWOODシリーズを導く、普遍性に溢れたナチュラルな音を感じ取っていただきたい。

3 WOODドームドライバーの構造図。カーボンコーティングPETの中央に50μmの薄さに加工されたウッドドーム(カバ材)をコーティングした「ウッドドームカーボン振動板」を搭載。強度に優れるチタンウムドライバーケースによって、音の雑味を排除する仕組みも盛り込んだ。

4 自然な音の広がりを実現するために、不要な音を拡散するドットを効果的に配置したユニークな形状を持つステンレス製のノズル。

5 シルク糸を沿わせて制振性を持たせる工夫も備えた本格仕様のハイグレードオーディオケーブルを採用。

6 全体の分解図。革新のWOODドームドライバーを収めるチタン製インナーハウジングの内部には、四角・阿波和紙や絹綿を吸音材として配置しているという。多彩な異種素材を組み合わせることにより、不要振動を抑えるとともに、美しい響きを引き出す。



②ビクター HA-FW10000